NRU

こくろうよなご

第１２号
２０２４年２月１０日
発行責任者　倉下文明
編　　集　教宣部

つくろう職場に労働運動を！　ひろげよう闘いを　職場に、地域に、全国に！

合同献花式で安全を誓う！

３名の仲間の尊い生命が失われた伯備線触車事故から１８年目となる１月２４日、追悼の日として各機関における「安全討論」と西労組米子地方本部との合同による「追悼献花式」を取組んで来ました。

事故以降、触防の改正をはじめ線路上の作業者の安全を確保するための様々な施策が実施されてきましたが、今も汽笛吹鳴などの危険な事象が後を絶たず、昨年１２月５日には山陽本線里庄・笠岡間にて停止手配員が貨物列車と触車し、死亡するという悲惨な事故も発生しています。本人が亡くなられているため、事故の経過や詳細は不明な部分も多くありますが、コロナ禍を経て、要員確保の困難さとそれに伴う働く者への負担感は増すばかりではないでしょうか。

里庄・笠岡間での触車事故にテーマを絞った「安全討論」では、「バラスト付近まで雑草が生い茂っている。その下に、溝が有ったりケーブルトラフが有っても見えず安全な場所とは言えない」「作業現場ほどの照度がなくヘッドライトの明るさだけではレールとの位置関係が把握できていなかったのではないか」「前方に電化柱があり、列車から見えやすい位置取りをしたのではないか」「昼の明るい時間帯に作業現場の下見とかはしてあるのか」など意見が出たようです。一方、「事象の発生は聞いたが、その後の対応などについての説明はない」など、「他山の石」から学べと言いながら、情報共有が十分にされていない現状についても報告されていました。

また、列車運行上の気がかりとして、「落石・倒木・動物などとの衝突・車両故障対策の強化が必要」「駅員配置が手薄になり、異常時の体制も不十分」「関連会社では、机上のみで現場での教育が疎かになっている」「他箇所の事故を受けて、構内入換方法が変更となったり、ＡＴＳ地上子が未整備の個所もあり危ないと感じる」などが報告されています。そして、設備に係る労働安全に関して「築４０年以上で、建物の老朽も激しい。先日は、４階から枠ごと窓が落ちた」など、一歩間違えば大けがに繋がりかねない事象が発生しています。

リスク管理と言いながら、今もって「発生主義」の体質が色濃く残っているのではないでしょうか。

「安全碑」前での合同献花式では、倉下委員長が「安全の誓い」を読み上げ、労組が協力して安全最優先の職場をつくるため取り組みを積みかさねて行く決意を表明しました。

ベア要求１７０００円を決定！

１月２７日、東京交通ビルにて「第１２７回拡大中央委員会」が開催されました。

中央委員会では、２４春闘の前進、ローカル線問題・安全・安定輸送の確立、組織強化・拡大さらには、今後の組織課題などについて活発な議論が交わされてきました。

２４春闘のベア要求については、本部提起の１７．０００円を確認、職場の労働条件改善とあわせて、組織の力を結集し、地域・職場から闘うことを意思統一をしてきました。

会社を問わず、離職が後を絶ちません。

「構造改革」などといいながら、会社経営は順調に回復しているにも関わず、そこで働く労働者が職場を去らざるを得ない状況を変えていく２４春闘にして行かなければなりません。

まずは、隣の仲間と賃金や職場環境の話から始めてみましょう。

闘いの火種は、そこにしか有りません。

欠かせないＪＲの協力！

去る１月１０日、益田市役所にて福原議長、平原市議会議員も同席のもと、政策企画局の担当者の皆さんとローカル線をはじめとした公共交通の現状や課題などについて意見交換をしてきました。

まず、益田市の取組として「山口線沿線自治体で協議会を設置」「遠足や部活動での利用に対する助成制度を整備」「益田駅１００周年での、ヘッドマークの作成・イベントの開催」など自治体としての利用促進策について紹介頂きました。

一方、要望や課題として「コロナ禍で減便された列車の復活を要望している」「益田駅のみどりの窓口が閉鎖され、切符が購入しづらくなったというイメージをもっている」「バス・タクシーも運転手不足で、路線も廃止となる。賃金が安いと言われても、自治体としてどこまで支援できるのか、難しい所」など、言われていました。

また、さらなる利用促進についての議論では、「ＩＣ化を進めることで、利用の傾向も分かり二次交通へのアクセス等にもつながるのではないか」「益田以西の山陰本線は特急列車が走っていないが、鉄道利用による萩や長門などへの誘客は考えられないか」など出され、もっとＪＲと自治体が協力して施策を進めることは出来ないのかと感じました。

一方、出席議員の方からは、「現在、石見部での重要課題の一つが公共交通」との認識も示されていました。

「今後の出雲市以西鉄道など公共交通の行く末」に非常に大きな懸念を持たれていると感じました。

組合の方からは鉄道路線の維持・活性化について、自治体としてもしっかりとＪＲに要望を挙げて頂きたいこと、本日頂いたご意見、要望を交渉など通して訴えて行く事を約束して、意見交換を終えてきました。